

| 項 目      | 名 称                  | 基準範囲(男性)    | 基準範囲(女性)    | 単位     | 検査の意味                                                                                       |
|----------|----------------------|-------------|-------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| WBC      | 白血球数                 | 3,300-8,600 | 3,300-8,600 | /μL    | 血液の細胞成分のひとつで体内に炎症がある時や血液疾患の時に数値の変動がみられます。                                                   |
| Neutr    | 好中球                  | 31-79 (成人)  | 31-79 (成人)  | %      | 細菌から生体を守る作用をし、感染症、炎症等で増加します。                                                                |
| PLT      | 血小板数                 | 15.8- 34.8  | 15.8- 34.8  | 万/μL   | 血液の細胞成分のひとつで血液を固めて止血する働きがあり、出血傾向、血液凝固性疾患の診断に用います。                                           |
| Hb       | 血色素量(ヘモグロビン)         | 13.7-16.8   | 11.6-14.8   | g/dL   | 赤血球の中にあり酸素と結合しています。貧血や多血症などの診断に用います。                                                        |
| T-Bil    | 総ビリルビン               | 0.4-1.5     | 0.4-1.5     | mg/dL  | 血液中の血色素が分解してできる成分で、肝臓の障害や黄疸の種類がわかります。                                                       |
| AST(GOT) | アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ  | 13-30       | 13-30       | U/L    | 肝臓の細胞の中にある酵素で、肝臓の状態がわかります。肝機能検査の代表とされています。また、ASTは心臓の病気の場合にも高くなります。                          |
| ALT(GPT) | アラニアミノランフェラーゼ        | 10-42       | 7-23        | U/L    |                                                                                             |
| ALP-IF   | アルカリホスファターゼ(IF法)     | 38 - 113    | 38 - 113    | U/L    | 肝臓で作られる酵素で、肝臓の障害や胆管のつまりの有無がわかります。また、成長期や骨折後の回復期には高くなります。                                    |
| CRE      | クレアチニン               | 0.65-1.07   | 0.49-0.79   | mg/dL  | 筋肉のエネルギー源として使われた物質のカスで共にからだの老廃物です。これらの老廃物を尿にながす腎臓の排泄機能がわかります。                               |
| UA       | 尿酸                   | 3.7-7.8     | 2.6-5.5     | mg/dL  | 核酸の構成成分であるプリン体の最終代謝産物です。痛風や腎障害のリスクがわかります。                                                   |
| Na       | ナトリウム                | 138-145     | 138-145     | mmol/L | むくみ、脱水(下痢、嘔吐)など体内水分のバランスをあらわします。カリウムの高い時は不整脈や心不全に対する注意が必要です。                                |
| K        | カリウム                 | 3.6-4.8     | 3.6-4.8     | mmol/L |                                                                                             |
| Ca       | カルシウム                | 8.8-10.1    | 8.8-10.1    | mg/dL  | カルシウムの99%は骨にあります。血液中のわずかなカルシウムは筋肉の収縮、血液凝固、神経が刺激を伝える時に重要な働きをしています。これらを調節する副甲状腺や骨の病気などがわかります。 |
| IP       | 無機リン                 | 2.7-4.6     | 2.7-4.6     | mg/dL  | 腎臓の機能や骨・副甲状腺の異常がわかります。                                                                      |
| PT-INR   | プロトロンビン時間INR         | 0.90-1.13   | 0.90-1.13   | INR    | 血液の凝固機能を示す検査値です。                                                                            |
| HbA1c    | ヘモグロビン エーワンシー(NGSP値) | 4.9-6.0     | 4.9-6.0     | %      | 赤血球に含まれるヘモグロビンにブドウ糖が結合した割合がわかります。過去1～2か月前の「平均的な血糖値」を知るための重要な指標です。                           |
| ALB      | アルブミン                | 4.1-5.1     | 4.1-5.1     | g/dL   | 総蛋白の60%をしめる成分で、肝臓のはたらきや栄養状態がわかります。                                                          |
| CRP      | C反応性蛋白               | 0.00-0.14   | 0.00-0.14   | mg/dL  | 細菌感染をはじめ体内に炎症がないかがわかります。                                                                    |
| CK       | クレアチンキナーゼ            | 59-284      | 41-153      | U/L    | 心筋、骨格筋、脳の中に含まれる酵素で細胞の損傷で血液中にでてきます。心筋梗塞の時にその障害の程度がわかります。また運動後など筋肉が疲労したときにも高くなります。            |

※基準範囲とは、多くの健康な人の血液検査から「統計的に導き出した」目安の幅です。

なお、当院では、2026年8月1日より全国で推奨されている共用基準範囲を採用しています。